

# 居住地校交流だより

令和4年9月29日発行〈前期号〉

障害のある子どもたちと障害のない子どもたちが共に活動する機会を通して、互いを正しく理解し、共に助け合い、支え合って生きていくことの大切さを学ぶことができるように、本校でも交流及び共同学習を推進しています。

その一環として、児童生徒が自分の住んでいる地区の学校を訪問する「居住地校交流」を行っています。前期は、小学部6名の児童が交流を行いました。前期に実施した交流の様子を紹介いたします。



扇田小学校1年生  
「水遊びパーティー」と題して、大きなプールで水遊びを楽しみました。開放的な雰囲気の中たくさんお友達と触れ合いました。

有浦小学校3年生  
体育の時間で、仲間作りゲームなど楽しいゲームを行いました。大人数の中でもここにこ楽しんで過ごすことができました。

長木小学校5年生  
特別活動の時間で、3種類のレクリエーションを楽しみました。自己紹介も進んで友達と和やかに過ごすことができました。

## ★障害理解授業等のゲストティーチャーによる出前授業の紹介★



居住地校交流を行う前に、本校職員がゲストティーチャーとして交流校を訪問し、出前授業を行っています。初めて交流をする学校や学年では、比内支援学校について（どんな学習を頑張っているのか等）、仲良く交流するためのコツ（笑顔・ポジティブな言葉等）について講話をします。また、友達を思いやって言葉を掛けられるように、簡単なゲームを通して話し方の練習も行います。何度も交流をしている学校では、地域には色々な人がいること（例えば車いすを使用している人、目が不自由な人、目には見えない困った思いをもっている人等がいること）を知ってもらえるよう、テーマを決めて授業を行っています、1年に1～2回の交流ですが、お互いに事前学習をし、有意義な交流になるよう準備をしてから、本番の交流を迎えるようにしています。



講話



体験：相手と心を合わせよう



感想発表

